

# 自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部・第2部特別課程第39期）

奈良県 上辻 裕実

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

## 1. はじめに

第1部・第2部特別課程は、「地方公共団体女性幹部職員養成支援プログラム」として位置付けられ、女性幹部候補の養成を目的に、「基本法制」「座学による講義課目」「班別（4～5名）で行うテキスト型事例演習とディベート型演習」「特定政策課題レポートの作成」の研修内容で実施されている。

第39期は令和2年9月15日から10月9日までの約4週間の日程で開催され、北は青森から南は沖縄まで、日本全国から48名の研修生が参加した。

例年、100名ほどの研修生が参加するところ、コロナ禍の影響で参加人数は少なくなったが、その分、全員と何らかの関わりは持ちやすいというメリットもあった。

コロナ禍での研修実施ということもあり、研修に参加するということが自体に不安も大きかった。しかし、自治大学校では、入校2週間前からの検温・体調管理の要請、入校後の毎朝夕の検温指示、施設の至る所への消毒液の配置、講義受講時の間隔を十分確保した座席配置、教壇へのアクリル板の設置、食堂利用時の対面を回避した座席制限など、様々な点で感染防止を考慮した取組みが行われており、安心して研修に集中することができた。

4週間という長いようで短い、全寮制の共同生活の中で、濃い時間を共に過ごした仲間との思い出を、ここで振り返りたい。

## 2. 基本法制

基本法制の受講方法は選択制で、自治大

で受講しない場合は、e-ラーニングにより「行政法」「地方自治制度」「地方公務員制度」「地方税財政制度」を受講することとなる。e-ラーニングで履修した私は、日々の業務に忙殺されながらも、時間を見つけては少しずつ学習を進めた。計38時間というボリューム、眠気を誘う耳に心地よすぎる優しい音声に心が折れそうになりながらも、地方自治に関連する重要な法制や、公務員として理解しておくべき地方自治制度・公務員制度・税財政制度について、分かりやすい教材により、効率よく高度な知識を習得することができた。また、「時間がない」ではなく、「時間をつくるもの」だということを改めて実感し、計画的に物事を進める重要さを学ぶ良い機会となった。e-ラーニングによる履修を選択する場合は、入校直前にまとめてしようと甘く考えず、余裕を持って取り組むことをお勧めする。

## 3. 研修内容

座学による講義課目では、「総合教養課目」、「政策形成能力を高めるための公共政策課目」、「地方公共団体を巡る最新の話題」について一流の講師陣の講義を受講することができ、多くの学びを得ることができる。

班別で行う演習のうち、テキスト型事例演習は、入校前に事前送付されるテキスト2冊を熟読し、設問に書かれた内容について自身の自治体の状況を調べ、作成した資料を持ち寄り、グループ演習を行うものである。今まで業務で関わったことがないテーマの場合は、すべて一から勉強することになるため、非常に苦勞する。しかし、自治体の状況を理解する絶好の機会と捉え、前向きに取り組むことで得られる学習効果は

大きい。統計調査を分析し、現状把握や課題抽出を行い、自身の自治体の取組みについて、資料や所管課への聞き取りなどで情報収集を行う過程において、テーマとなった制度と真剣に向き合うことができる。

演習では、同じテーマであっても自治体によって現状や課題は様々であること、課題に対する考え方や課題解決へのアプローチの仕方の違い、研修生それぞれの視点での捉え方を学ぶことができ、多くの刺激を受けることができる。

ディベート型演習では、選んだテーマについて肯定側・否定側に分かれ、自グループの主張の正当性を立証する過程で、論理的な議論手法を身に付けることになる。自治大におけるディベート型演習のねらいは勝敗を競う点にはないが、ときには議論が白熱しすぎることもある。しかし、それだけ真剣に取り組むことこそ、この演習の醍醐味だと思う。

特定政策課題レポートは、5つのテーマのうちから自身が最も興味があることや、自身の自治体において重点的に取り組んでいることなどから1つを選び、現状分析、課題抽出、課題解決のための政策課題について、読み手に分かりやすくまとめることを目的に作成するものである。

この演習が最も労力を費やす課題であり、現状分析資料の収集や課題の抽出、政策提言のために論文をいくつも読み、いかに8,000字を超えるか、12,000字以内に収めるか、分かりやすい文章表現とはどのようにすれば良いのかに悩み、夜中までレポート作成と向き合う日々が続いた。

やっとの思いで中間提出日を迎えた時は、開放感に酔いしれるが、中間提出後に行われる担当教員からの指導に打ちのめされる。

でもそんな時、やはり仲間が存在に救われる。どんなに苦しくても仲間と一緒にという思いが、より一層研修生の一体感を増し

てくれる。苦勞するのも良い経験ではあるが、入校前に分析資料等を収集し、政策提言の内容をある程度想定しておく方が、少し余裕を持って課題に挑めることをお伝えしておきたい。

#### 4. 研修を終えて

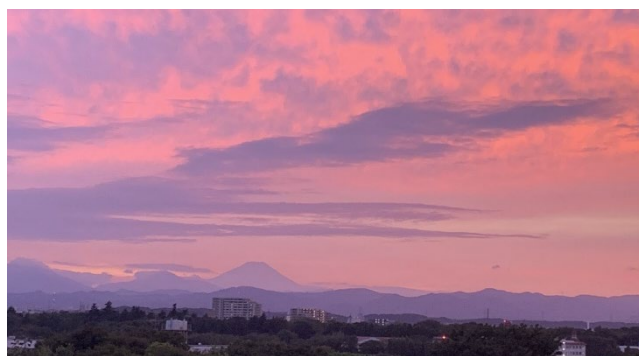
令和2年10月9日、全ての課程を修了し、誰一人体調を崩すことなく48名全員が無事に卒業式を迎えることができたことを本当に幸せだと感じた。

卒業証書を受け取りながら、入寮日から卒業式までの日々を思い返すと、初日に感じた不安は、仲間との別れを惜しむ寂しさに変わっていた。社会人として味わう自治大生としての日々は、学ぶ幸せを噛みしめる時間であり、幹部候補生として自治体から派遣されているという自覚を強くする時間であった。

この研修では、入校前よりも確実に成長している実感を得ることができ、今後一生の宝になる仲間との絆を育むことができる。

また、全国各地に帰っていく仲間と再会するときには、胸を張って今よりもっと成長した姿を見せたいという気持ちが、これからの自分を支えてくれるだろう。

この文章を読んでいる人が、もしこの研修の受講を迷っているとしたら、心から受講をお勧めする。一生の財産になる経験が自治大にはあることをお伝えしたい。



夕焼けと富士（寮の窓より）